

研究課題名：	院内フォーミュラリー導入による有効性と経済性の評価
研究機関名：	さいたま赤十字病院
所属(診療科等)：	薬剤部
研究責任者及び職名：	町田 充 (さいたま赤十字病院薬剤部長)
共同研究者及び職名：	根岸 健一 (東京理科大学薬学部准教授)
研究期間：	研究実施期間 2022年6月2日～2023年3月31日 データ収集対象期間 2019年4月1日～2022年12月31日
研究の目的と意義：	患者に対して最も有効で経済的な医薬品の使用に関する規定を定める「フォーミュラリー」を導入するため、さいたま赤十字病院の過去の処方データを基に選択した「フォーミュラリー適用可能な疾患治療薬」が処方された患者データを用い、フォーミュラリー作成後の経済効果のシミュレーションを行うことで、フォーミュラリー導入に伴う経済効果を検証することを主たる目的としています。また、フォーミュラリー導入により治療効果・副作用の発生などが変わらないということについても調査による検証を行い、薬物治療の質を担保できるかどうかを副次的な目的として実施します。
研究内容：	2019年4月1日～2022年12月31日までの間に、作成するフォーミュラリーの対象となる疾患と診断され、その疾患に適応を持つ医薬品をさいたま赤十字病院で処方された患者のデータについて、患者を特定する情報から切り離した下記のデータについて、後ろ向き観察研究を実施するために収集します。 尚、データとして使用する項目としては、対象医薬品の有効性や副作用に関連する症状(下痢・嘔吐、疼痛などの頻度や重篤度など)や、対象患者の背景情報(性別、年齢、身長、体重、合併症、既往歴、現病歴や全身状態など)、臨床検査値(血算値：白血球数・赤血球数、好中球数、ヘモグロビン、血小板など、生化学検査値：総蛋白・Alb・T-bil・AST・ALT・BUN・Cr・LDH・Na・K・CRP・HbA1c など、各種マーカー値：CEA・CA19-9 など)などで、観察期間中に記録された分析に必要なデータを分類・集計し、Microsoft Excel、SAS などを用いた要因分析を行い、作成するフォーミュラリーの有用性を検討します。
個人情報の取り扱い：	研究実施の際には、予め個人情報に該当しない情報に加工したデータを扱うため、データから個人を特定できない情報として管理・利用されます。また、分析後の集計データ以外のデータが外部で公表されることや、データが持ち出されることはなく、学会などで使用される際も、患者の特定に至る個人情報データをそもそも扱わないため、個人を特定する情報が公表されることはありません。
問い合わせ先： (拒否等の受付窓口)	所属：さいたま赤十字病院 薬剤部 氏名：町田 充 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5 電話：048-852-1111 (内線 3400)